

令和元年度（2019年度）

事業報告書

平成31年（2019年）4月1日から

令和2年（2020年）3月31日まで

社会福祉法人慈恵会

以上監査したところ相違ないことを認めます。

令和2年 5月22日

監事

澤上 清二



監事

竹正 正人



I 総括（令和元年度）

2020年1月16日国内で初めての新型コロナウイルス感染者確認された時は他人事だったことが、4月30日になると国内での感染者数は1万3929人（世界では325万6846人）と増大、他人事ではなくなった。「入居者を守る」を第一優先で取り組み、入居者、家族に不便や心配をかけているため、最近ではズームを使ったウェブ面会を実施している。在宅サービス部は「三密」を避けて活動場所を移動している。また、職員は緊張の日々の中で、利用者を守る感染対策に取り組んでいる。

法人全体で取り組んでいる感染対策は、委員会開催や、ハングアウト・メールにより、日々情報共有（行政通知・他事業所情報・ケアマネ情報・衛生用品在庫等々）をして、会議や打ち合わせはウェブや、Zoomを利用している。

稼働については、入居サービス系では変動ないが、在宅サービス系は比較のお元気な方が利用控えにより、20%から25%の稼働率減少となっている。

このような状況下でうれしかったことは、利用者家族・業者から「頑張っ！」と差し入れを頂戴したり、近隣の方などから手作りマスクの寄贈、ボランティア、職員家族がマスクの製作を引き受けて下さる等、思わぬところで温かい励ましを頂いてきた。

法人経営状況は、7月からリハステ守山・草津が法人に統合したため、収益は前年比では116%。同様に人年費も前年比では125%となった。前年度比較は出来ないが、それぞれの部署が立てた稼働率目標は達成できて、例年並みの収益となった。税理士からのアドバイスでは、人件費率68,1%（全国平均64,6%）で、今後効率的な人員配置や採用計画を行なうことが課題である。また、預貯金については現在5億2千万円であるが、この規模での全国平均は6億円であるため、今後は目標に向けての計画的貯蓄を進めていくようアドバイスがあった。

法人事業報告

1・南部地区地域包括支援センターの開設について

2019年4月から開設。マンションの世代と地元の人が混在し複雑かつ困難ケースが多い。頼りにしていただけ的存在になれるよう努力している。

2・リハステーション守山・リハステーション草津の事業譲渡統合について

2019年7月から23名の職員を迎えて事業が始まって10ヶ月間を経た。数名の退職者はあったが、混乱はなく、在宅部として合同で共にウェブ会議等での情報交換が出来ている。

3・特定処遇改善加算について

2019年10月から新設の特定処遇改善加算申請をして、法人全体では半期で767万円であった。

特定処遇改善加算の目的（現場で長く活躍してきた職員の賃金向上と、介護業界の処遇改善及び人財確保）に沿った配分を6月に支給予定

4・訪問看護ステーションの事業開始について

2020年5月1日から事業開始している。

5・地域に向けた支援事業は2020年2月からは感染予防のため中止。

実施事業：ゆいのは守山音楽連盟の協力を得てオペラ鑑賞・第7回地域住民グランドゴルフ・第5回ゆい友の会・第7回0歳～100歳コンサート
：守山市委託事業（サロン派遣事業・百歳体操等）

中止事業：第20回ボランティア交流会、第4回運営協議会、苦情のための第三者委員会

自主事業及びボランティア受け入れは3月から中止中

6・ICT関連について

1) 介護ロボット（眠りスキャン：30名に使用（内23名看取り時） Hug：3名に使用（トイレ介助立位時） Dfree：1名（排尿タイミングを計る）

2) 介護サブリ（Care-Wing・G-Suite・インカム・タブレット・iPad）滋賀県老人福祉施設協議会の研究発表会にて発表したため、他施設から問い合わせや見学があった。

7・各プロジェクトの進行状況（人材確保・給与検討・特養建て替え・企業主導型保育事業）

議案・報告および専決報告にて記載

<理事会・評議員会等の状況>

社会福祉法人慈恵会 役員（令和元年度（2019年度））

任期 令和元年6月15日～令和3年に開催する定時評議員会の終結の時まで

理事長 廣田 加代子
 常務理事 掛谷 壽香（業務執行理事）
 理事 廣田 岳尚
 理事 青山 修子
 理事 岸井 千里
 理事 本條 由美
 監事 淵上 清二
 監事 竺 正人

社会福祉法人慈恵会 評議員（令和元年度（2019年度））

任期 平成29年4月1日～平成33年（令和3年）に開催する定時評議員会の終結の時まで

評議員 廣田 久佳
 評議員 牧野 伸彦
 評議員 井上 純作
 評議員 今井 悟
 評議員 金野 弘子
 評議員 田所 久美子
 評議員 辻 絹子
 評議員 井上 正雄

・評議員会（3回開催）

第1回 令和元年 5月8日（決議の省略 定款変更について）
 第2回 令和元年 6月15日（定時評議員会 H30年度決算について等）
 第3回 令和元年 12月18日（決議の省略 定款変更について）

・理事会（4回開催）

第1回 平成31年 4月24日（決議の省略 榊明尚介護保険部門譲り受けについて）
 第2回 令和元年 5月8日（定時理事会 H30年度決算について等）
 第3回 令和元年 6月15日（臨時理事会 理事長選任について）
 第4回 令和元年 6月26日（臨時理事会 令和元年度資金収支第1次補正予算等）
 第5回 令和元年 11月27日（定時理事会 令和元年度資金収支第2次補正予算等）
 第6回 令和2年 3月28日（定時理事会 令和元年度資金収支決算見込等）

Ⅱ 各部署からの振り返り

1. 特別養護老人ホーム（短期入所介護サービス含む）

- ① 【褥瘡対策、口腔ケアなど加算の評価を行う。機能訓練、排泄評価など、新規加算の取得を目指す。】

口腔ケア加算算定のため、月2回歯科衛生士による口腔ケアを継続的に実施したことで、職員の口腔ケアに対する認識も高まった。誤嚥性肺炎での入院を減らすことができた。
機能訓練、排泄評価など、新規加算取得については、検討は行ったが実施には至らなかった。

- ② 【職員の介護負担の軽減や業務の効率化を図るため、ICT・介護機器の導入及び効果的な介護実践を行う。】

G SUITE の機能を順次導入し、業務効率を図っている。眠り SCAN は看取りの方などに使用することで、終末期の時期など家族と協力し合えるようになっている。また、Dfree と HUG を導入し適切な排せつや職員の腰痛予防などに今後活用していく。ICT 推進委員会を立ち上げ、法人内へ周知している

- ③ 【従来型：95.8%（57.5人/日） 別館：96.2%（38.4人/日）を目指す。】

従来型：96.3%（57.8人/日）、別館：98.3%（39.3人/日）となり、目標値に達した。口腔ケアを継続的に実施することで、誤嚥性肺炎による入院日数を減らすことができた。
退所者が多い年となり、1年で39名の退所があった。うちゆいの里での看取りは28名とは7割以上の方が、ゆいの里で亡くなられた。

- ④ 【利用率96.8%（15.5人/日） 別館空きベッド利用50%】

従来型 SS 利用率97.1%（15.5人/日） 新規52件 別館空床 SS 4件
ショート利用者の特養入所が多くあったことで、予約分が埋めきれないこともあったが、緊急ショートを断らずうけたことで、定期利用につながったケースもあった。

2. 守山デイサービス

- ① 【ボランティアの協力を得て活動の充実を図る】

歌クラブでは敬老会での発表に繋げ、活動の充実を図ることができた。
児童クラブとの交流を2回行い、継続した取り組みとすることができた。

- ② 【認知症ケアの勉強会を2か月に1回行い、各部門の特色を活かした個別ケアを行う。】

デイ会議で、ひもときシートの勉強会を継続して行い、各部屋で個別ケアに活かすことができた
はなれでは、利用拒否の強い方を時短から始め週3回の安定した利用に繋げる事ができた。

- ③ 【はなれ80%、えんがわ80%、ひまわり75%、（ゆったり8人/日）登録者数120名を目指し安定した経営を図る。】

デイでの様子以外にも自宅での様子や家族の変化にも気を配り、ケアマネジャーや他事業所との連携に努めた。利用者のデイでの取り組みや様子をこまめに伝えることで、守山デイのアピールを行った。また、介護支援専門員への報告書には、文章だけではなく写真を添付し、介護支援専門員からも家族へ見せたいと好評であった。

ゆったりは6.5人ではあったが、はなれ86.5% えんがわ84.6% ひまわり87.9%と通所介護では、目標を大きく上回る事ができた。

3. 幸津川デイサービス

① 【いつまでも自宅でその人らしく生活できるよう、身体状態を細かく把握し、介護支援専門員関係事業所と情報を共有することで安心した在宅生活が送れるように支援する。】

月1回（実績報告時）の利用者の状況報告を継続した。日々の状態を観察し、気になることがあれば随時報告を行った。また、サービス担当者会議にも積極的に参加し、介護支援専門員や関係事業所との情報の交換・共有に努めた。

② 【他事業所との「顔の見える」関係を継続し、信頼関係の構築を図る。】

実績配布やサービス担当者会議などに参加し、新しい相談員の顔を覚えてもらえるように努めた。

③ 【利用率80%、一日平均20.0名、(ゆったり5人/日)登録者数85名を目指す。】

通所介護（稼働率80.2%、一日平均20.0名、登録人数は70名）、総合事業（一日平均3.4名、登録人数15名）であった。通所介護は目標を達成することができた。季節を感じる行事やリハビリができる環境づくりなどを行い、またおやつ作りなどのレクリエーションも定着してきた。総合事業の利用者が増えたことで活発なデイサービスになってきており、総合事業の方を中心に自分でできることを増やす取り組みを行った。

4. デイサービス（共通）

【家族介護者教室、家族会を年2回開催する。公民館など地域にも広く広報し、地域の方へも参加を呼びかける。】

両デイの家族介護者教室・家族会を7月と2月に実施し、48名の参加があった。

5. リハステーション守山デイサービス

① 【稼働率 87%を達成する（毎月）】

「新規利用者の獲得」「振替利用やスポット利用者の推奨」「意義のある形での増回提案」など稼働率改善に向けた取り組みを積極的に行った。また、サービス内容に関しても「また来よう」と思ってもらえるように、接遇・内容面での充実を図った。結果としては年度平均85.1%と一部下回る形にはなったが、継続的な新規利用依頼も頂け、安定した形での運営ができた。

② 【自立・社会参加の支援を100名の対象者に実施する。】

ご利用者の生活での課題や「望むくらし」の聞き取りを強化し、リハビリスタッフの個別での生活改善に向けた取り組みを強化した。また「買い物」「保育園や子供食堂へのプレゼント」など「地域とつながる」ための企画を年度で4回ほど実施し、社会参加の機会・きっかけを作る事ができた。年間で90名と目標には及ばなかったが、全利用者の60%の方に対して自立・社会参加に向けた集中的な取り組みを実施する事ができた。

③ 【業務の効率化・残業時間の削減を目指す。(18時までの完了を75%以上にする。)]

記録業務の簡素化/書類の見直し/スタッフのスケジュール活用やICTでの見える可 など業務効率を改善し残業時間が短縮できるように取り組みをすすめた。一時期は達成できたが、下半期よりスタッフの入退職が多くなり、形の見直しが必要となったため、効率的な取り組みの実施が難しかった。反面、スタッフの教育機会や習得業務の拡大などから、スタッフが成長できるような取り組みをすすめる、スタッフ1人1人の成長につながるようすすめる事ができた。

6. リハステーション草津デイサービス

① 【月間稼働率 90%を達成する。(毎月)】

キャンセル率を減らす・私用での欠席に対しての振替/スポット提案/外部営業の強化などを取り組みとして掲げ「キャンセル率 15%以下」「振替・スポット率 40%以上」「見学依頼数 15 件以上」と取り組み目標値を達成した。年度稼働率も **88%**と好調で、1 年での運営状況も飛躍的に改善が見られた。

② 【新規利用者のサービス継続率を 90%以上にする。】

利用開始後での重点的に支援を行った事で、新規利用者 13 名全員が終了する事なく継続頂けている。

③ 【業務の効率化：5 人ですすめているサービス提供を 4 人で実施できるようにする】

正規職員が担当していた業務（役割）をパートスタッフにも依頼する事/ご利用者自身にもできることは自分でしてもらう事 の 2 点を強化し、**4 名でサービス提供が可能となった**。時間と人手が捻出できたことで、企画や管理業務などにあてる時間をそれぞれが捻出する事ができた。

④ 【ご利用者の満足度が高まる取り組みを行う。】

外出や買い物などの企画の実施/苦情相談結果の改善から顧客満足度を高める取り組みをすすめた。新規利用者数・問い合わせ数・キャンセル数・終了者数・苦情件数などでそれぞれ目標値を決め、指定の件数以上（または以下）になる形で満足度を高める取り組みを進める事ができた。

7. リハステーションデイサービス（共通）

【スタッフ 1 人 1 人が成長できる事業所にする】

OKR という新しい手法を用いて年度の目標設定（管理）を行った。正規職員 1 人 1 人が事業所の目標達成に向けた仕事を担当する事で、各自が責任をもって取り組む（すすめる）事が出来た事は大きな成果であったと感じる。半面、両事業所とも「チームで考える/協議してすすめる」機会が不足し「理念や目標にむけた共通認識」を掘り下げて考える機会が少なくなってしまった。新しいスタッフが増えている状況のため、「スタッフ間での意見交換」や「意識・方向性の共有」を重視して、次年度はすすめていきたい。

8. 居宅介護支援事業

① 【介護支援専門員一人当たり平均介護給付 33 件を維持するために、毎月平均 3 件の新規受け入れを行う。(予防は 45 人を上限とする)】

1 人当たり平均介護給付 34 件と高い稼働率を維持することが出来た。予防給付は 7.2 名。合計すると介護支援専門員一人当たり 41.3 名の利用者受け持ちを行った。(3 月末現在、介護支援専門員 1 年平均常勤換算 5.2 名として)

年間の新規受入が 19 件であった。9 月から 1 月までは介護支援専門員が 1 名不足であったため、新規の受け入れを断っていたことも要因であった。

② 年間 15~20 件の研修（自主研修を含め）を受けた中で、基礎資格は様々な介護支援専門員が『介護支援専門員』という視点で研修を受け、その中での学びの中で介護支援専門員としてこういったことを学んだ、不足しているなどの新たな気づきを得ることで個々がスキルアップにつながった。

③ 介護支援専門員の人数が少ない時期があっただけに、それぞれが担当する困難ケースを居宅としてフォローしあえる（二人で対応する等）体制づくりを持つことが出来た。また、その中でそれぞれが不足していた専門的知識（医療精神、社会保障等）を積極的に学ぶ姿勢がみられるようになった。その中で介護支援専門員一人一人が大きな経験を積むことが出来た 1 年であった。

9. 訪問介護事業

① 【訪問記録システム「ケアウイング」を活用し、仕事の効率化（情報の共有のスピード化）をはかる】

今年度、ヘルパー全員に社用スマートフォンを支給して頂き、手書きの記録用紙から IC タグスキャンで入退室管理をおこなう方法に移行。操作をみんなで練習し、ケアウイングへの入力ができるようになった。訪問実績の変更や特記事項も一緒に入力することで、翌日には正しい実績が確認できるようになった。次に訪問するヘルパーへの伝言としても利用できており、確認がスムーズになり時間短縮できた。申し送りについては、以前は事務所のノートに書き込み、出勤したら確認という方法であったが、スマートフォンで全体に送信することでケアの合間にも確認でき、すぐに返信が来るというやりとりができています。

② 【居宅事業所との信頼を深め、定期的な情報の発信を行い、安定した利用者獲得を行う（527件/月を目指す）】

① の取り組みにより、ヘルパーからサービス提供責任者へ。サービス提供責任者からご家族や介護支援専門員、他事業所へ。というやりとりがスムーズにおこなえている。事業所訪問での報告に加え、たくさんの情報をタイムリーに伝えることができ、ご利用継続や新規の利用者紹介につながったと思う。昨年度よりも訪問件数、訪問実績が増加した。

10. ケアハウス

① 【利用者中心のサービス提供】

個々の出来る事(良いこと探し)の洗い出しを日常会話の中で聞きだし、生き甲斐つくりにつなげる事ができた。 そのひとつとして、お仕事プラン(縫子仕事「マスク作り、エコバック、マスク入れなど」、絵葉書作成、交流ホーム清掃など)を開始した。 入居者さんの生き甲斐だけではなく、入居者確保の宣伝へとつなげたい。

② 【地域福祉への貢献】

地元自治会の防災訓練に於いて「災害時の車いすの活用(仕組みや操作方法)」のブースを担当して地域貢献、交流を行った。

③ 【職員の資質向上】

コミュニケーション能力向上の為に観察、洞察力、聞き出す、引き出す力等の向上に努めた。また、緊急時対応の研修、認知症に関する知識向上と基礎的な介護技術を身に付ける為の研修なども実施した。

④ 【危機管理】

感染症では新型コロナウイルス、インフルエンザの情報提供やポスター掲示、入居者向け研修などの予防対策を行った。

また、入居者と一緒に防犯研修、訓練を実施した。

⑤ 【健全経営について】

即入居希望者6名を確保しながら、入居率は99.68%となり、予算人数(入居率は99.2%)を上回る事ができた。

11. グループホーム

① 【活動意欲を向上させ、外出機会を増やす】

個々の思いを引き出し、外出機会を増やすことができた。出かける目標ができることで、日常の動きの活性化にも繋がり、利用者が体を動かす機会がこれまで以上に増えた。

② 【認知症に関する知識を向上する】

昨年より継続して勉強会を実施してきた「ひもときシート」を全職員が使えるようになった。これにより、認知症の人の抱える困難さを紐解くことができるようになり、表面だけでは見えない思いに近づくことができるようになった。

③ 【生産性の向上】

IPAD の導入により、少しの合間に記録入力することができるようになり、時間を削減できるようになった。他、記録を紙ベースからデータ管理へ移行。時間とペーパー使用量削減とつながった。

④ 【健全経営】

即入居希望者を常時4名確保できた。今年度は、日常の利用者の体力維持の関りの成果もあり、退居者が1名（年度末）であった。また、入院の空室には、待機者にショートステイを利用していたが、稼働率99.47%と目標達成できた。

（ショートステイ利用実績 H28：100人 H29：126人 H30：96人 R1：17人）

（入院者 H28：54人 H29：156人 H30：24人 R1：47人）

12. 地域連携事業（守山市受託事業・サロン事業）

① 【地域福祉への貢献（ゆいの里独自事業）】

・木曜の朝はゆいの里で元気充電

	百歳体操 毎週木曜日 10:00～	ほっこりカフェ 第1木曜日 11:00～	はつらつフレッシュ 第2木曜日 11:00～	ほっこりカフェ(男性 専科) 第3木曜日 11:00～	卓球 第4木曜日 11:00～
合計 利用人数	1504名(44回)	282名(9回)	366名(11回)	109名(3回)	88名(10回)
1回の平均 利用者数	34.2名	31.3名	33.3名	12.1名	8.8名

・ゆいの里簡単料理教室・・・1～2月：2回実施 延べ参加者数：51名（3月はコロナ感染予防のため中止）

・サロン講師派遣事業・・・依頼：23件 ・施設見学：2件
（協賛）

・0～100歳コンサート 10月26日守山音楽連盟協賛・・・62名参加（職員6名）

・中野自治会「出張ほっこりカフェ」10回/月参加・・・合計10回（延べ職員派遣数20名）

② 【守山市受託事業】

・守山市すこやかサロン等介護予防指導員派遣事業 2回（参加者延べ人数120名）

・栄養士サロン派遣事業 22回（地域利用者延べ人数997名）

・令和元年度守山市百歳体操・認知症予防教室

第1教室（守山市北公民館） 8月2日～10月25日 12回 延べ参加人数 59名

第2教室（守山市中心市街地活性化交流プラザ）8月2日～10月25日 12回 延べ参加人数 98名

第3教室（すこやかセンター） 1月1日～1月31日 12回 延べ参加人数 198名

1.3. 北部地区地域包括支援センター

① 【認知症についての正しい知識や理解への普及啓発により地域全体で見守り支えられる体制を構築する】

北部包括主催の認知症カフェ『ほっこり庵・絆』を今年度より、毎月開催した。9月にはカフェで「ミニオリンピック」(室内運動会)も行い、居場所づくりとカフェサポーターの活動拠点として確立してきている。今年度は自治会でも人権学習として認知症サポーター養成学習の依頼が増えている。地域において認知症の早期発見・早期対応できるように普及活動と認知症サポーター養成講座後の活動の場についても考えていきたい。

認知症サポーター養成講座(自治会・小学校):地域6件・圏域学区小学校3件:延567人

認知症カフェ「ほっこり庵～絆～」:10回延172人

② 【支援困難事例に対応できる力量を付ける】

上半期は、地域の介護支援専門員対象に北部包括主催の事例検討会を2回実施した。テーマを基幹包括主催の介護支援専門員研修とリンクさせ、学びを深めることを目的とした。下半期は介護支援専門員と民生委員対象に圏域地域課題を基に事例検討会を開催し、顔の見える関係づくりとそれぞれの立場で地域で支えあうを考える機会となった。次年度も継続して開催し、地域の支援者として気づきの視点を増やすこととアセスメント力の向上を目指したい。

気づきの事例検討会(2回):介護支援専門員 延38人

地域で支えあうを考える事例検討会:介護支援専門員 14人、民生委員 7人

1.4. 南部地区地域包括支援センター

① 【地域の総合相談窓口として、相談しやすい環境を整え、介護予防の推進を図る】

4月に事業開始し、事務所は5月中旬の開所と遅れたが、地域住民に広く知ってもらい、活用してもらうため、定例の事業に加え、地域性をとらえた独自事業を実施した。実施にあたり、学区・市広域等活用し広く広報したことで、来所相談件数も増えた。

上半期(5～9月)平均15件/月→下半期(10～3月):平均24.3件/月

南部包括から遠い小津学区の来所相談、事業への参加人数が少ないので、小津会館で出張介護相談会を下半期に2回実施した。参加が少なかったが定例化することで地域に周知していく。

・介護予防教室「Let's トライ8(エイト)」8回(10月～12月):延116人

・家族介護者教室5回(1月～2月):延93人

・親子介護教室(8月):7組15人 ・安全運転教室(1月):20人

・小津介護なんでも相談会:11月1人・2月0人

② 【認知症の人及び家族への支援業務を南部地区センターを拠点に展開し推進する】

南部包括主催で、認知症サポーター養成講座を年2回開催した。(参加者39名)参加者の中から、カフェサポーターを募った。準備を整え、9月から月1回オレンジカフェ「お結びカフェ」を定期開催し、好評を得ている。(6回:参加者延べ124名 内サポーター延べ17名)

③ 【地域のネットワークの構築及び整備を行う】

地域ケア個別会議に、毎回事例を提出し地域課題の抽出を行った。長年未解決のケースの課題を、地域住民、専門医、開業医、関係課等の協力を得て抽出し、ケース支援が開始できた。地域づくりに会議への参加はできなかったが、開所式には地域住民に向けた「地域包括ケアシステムの構築」の講演会を実施(32名参加)、守山小津両学区とも地域役員対象に「地域づくり」に向けた研修会を実施した。

1. 利用実績

	定員	利用者合計(人)			一日平均(人)			稼働率(%)		
		H29	H30	R1	H29	H30	R1	H29	H30	R1
入所サービス	100	34,951	34,999	35,427	95.8	95.9	97.1	95.8	95.9	97.1
短期入所(ホーム)	16	5,574	5,619	5,671	15.1	15.4	15.5	94.6	96.2	97.1
ケアハウス	50	18,080	18,014	18,183	49.5	49.4	49.8	99.1	98.7	99.6
グループホーム	18	6,313	6,451	6,536	17.3	17.7	17.9	96.1	98.2	99.5
短期入所(GH)	-	126	96	17	0.3	0.3	0.0	49.0	80.7	50.0
守山デイ	62	10,028	10,871	12,001	38.7	42.5	46.5	82.4	68.5	75.0
(はなれ)	12	2,554	2,757	2,658	9.9	10.8	10.3	82.8	89.7	85.9
(えんがわ)	25	5,328	5,366	5,414	20.6	21.0	21.0	83.4	83.8	83.9
(ひまわり)	10	2,146	1,508	2,249	8.3	5.9	8.7	82.2	58.9	87.2
(ゆったり)	15	-	1,240	1,680	-	4.8	6.5	-	32.3	43.4
幸津川デイ	35	6,256	6,985	7,242	20.1	22.7	23.4	67.2	64.8	67.0
(通所介護)	25	6,256	6,287	6,196	20.1	20.4	20.1	67.2	81.6	80.2
(ゆったり)	10	-	698	1,046	-	2.3	3.4	-	22.7	33.9
リハステ守山	42	-	-	10,902	-	-	35.7	-	-	85.1
リハステ草津	36	-	-	9,660	-	-	31.7	-	-	88.0
訪問介護	-	5,298	6,802	7,141	17.1	22.1	23.1	-	-	-
居宅支援	35/月	2,707	2,807	2,581	225.6	233.9	215.1	-	-	-

※居宅はケアマネ常勤換算5.8名 / GHの稼働率は短期入所、KHは空室利用数を除く

2. 利用者の状況

A. 入居者

(人)

(歳)

	定員	新規入居数	女性	男性	合計
入所サービス	100	38	33	5	38
ケアハウス	50	6	3	3	6
グループホーム	18	0	0	0	0
合計	168	44	36	8	44

最低年齢(女・男)		最高年齢(女・男)		平均年齢(女・男)		平均
63	72	104	104	89.4	85.4	87.4
67	69	100	90	86.0	81.0	83.5
78	74	100	86	89.2	80.0	84.6
63		104		88.2	82.1	85.2

B. 契約者(在宅)

(人)

(歳)

	定員	年度内 新規契約数	契約者数		合計
			女性	男性	
守山デイ	47	55	103	27	130
幸津川デイ	25	38	59	26	85
リハステ守山	42	23	88	83	171
リハステ草津	36	26	76	52	128
短期入所(ホーム)	16	52	92	28	120
短期入所(GH)	-	1	2	0	2
訪問介護	-	27	38	24	62
居宅支援	-	19	145	74	219
合計	-	241	603	314	917

最低年齢		最高年齢		平均年齢		平均
女性	男性	女性	男性	女性	男性	
70	77	96	94	85.9	86.1	86.0
72	68	101	95	88.0	85.0	86.5
56	47	95	95	80.1	79.2	79.7
64	61	96	89	81.2	77.5	79.4
61	68	99	95	88.5	83.2	85.9
84	-	84	-	84.0	-	84.0
68	61	97	95	86.3	82.2	84.3
56	61	107	93	86.8	81.3	84.1
47		107		85.1	82.1	83.6

C. 介護度別人数

(人)

	自立
入所サービス	—
短期入所(ホーム)	—
ケアハウス	29
グループホーム	—
短期入所(GH)	—
守山デイ	—
幸津川デイ	—
リハステ守山	—
リハステ草津	—
訪問介護	—
居宅支援	—
合計	29

(人)

要支援		平均支援
1	2	
—	—	—
0	0	0.0
5	2	1.3
0	0	—
0	0	—
7	11	1.6
5	8	1.6
27	39	1.3
16	26	1.6
0	3	2.0
14	15	1.5
74	104	

(人)

介護度					平均介護度
1	2	3	4	5	
1	2	36	40	21	3.8
35	36	20	23	6	2.4
11	3	0	0	0	1.2
6	5	7	0	0	2.1
1	1	0	0	0	1.5
67	22	11	2	2	1.6
22	17	14	13	4	2.4
60	22	4	4	0	1.5
54	21	9	1	0	1.5
28	17	9	5	5	2.1
101	35	18	8	3	1.6
386	309	265	96	41	

D. 入院、受診状況

(人)

	人数	平均期間	延べ日数	前年度延べ日数
入所サービス	35	19	818	936
ケアハウス	18	23.3	419.4	357
グループホーム	2	22.5	45	24
合計	55	65	1,282	1,317

受診者数
248
453
701

E. 契約解除の状況

(人)

理由	死亡			サービス移行				
	入院中	施設内	在宅	継続治療	法人内サービス	法人外サービス	老健入所	その他
入所サービス	4	28	0	0	0	0	0	7
短期入所(ホーム)	18	0	3	0	15	7	0	2
ケアハウス	3	0	0	1	0	2	0	0
グループホーム	0	0	0	1	0	0	0	0
短期入所(GH)	0	0	0	0	0	0	0	0
守山デイ	3	0	7	0	22	7	13	7
幸津川デイ	7	0	1	0	3	6	0	24
リハステ守山	0	0	6	0	0	7	1	8
リハステ草津	0	0	3	0	0	8	1	16
訪問介護	5	0	0	6	1	8	0	3
居宅支援	17	0	1	6	3	3	7	2
合計	57	28	21	14	44	48	22	69

3. 実習生、研修生の受け入れ状況 合計 24 団体

種 別	受入回数	人数	期間	延べ人数
社会福祉士	1	1	14	14
介護福祉士	7	12	96	165
看護師	2	13	17	107
体験学習	8	32	28	66
初任者・実務者研修実習等	0	0	0	0
合 計	18	58	155	352

4. 職員研修の状況

別階層別研修	専門研修	外部研修	必須研修
新規・中途採用	普通救命講習	メンター(プラシス)育成研修	個人情報保護法
ジュニア・ミドル	スーパーバイザー養成研修	抱え上げない介護推進セミナー	身体拘束・高齢者虐待
シニア	ストレスマネジメント研修	認知症介護実践者研修	感染予防
班長	ゆいの里研究発表会	雇用管理責任者講習	防災・防犯
副主任	生産性向上支援訓練【主・副主任】	ケアテックス関西2019	
主任	ひもときシート研修	明日から使える時間活用術	
トップ・部長・課長	介護に関わる専門職として持つべき死生観について	補助金を活用した災害対策セミナー 等	
10回	15回	106人	4回

5. リスクマネジメントの状況

(件)

	ひやり・ハット報告	準事故	行政報告事故	苦情報告
入所サービス	317	517	5	5
ケアハウス	17	5	0	0
グループホーム	188	348	1	0
デイサービス	92	135	0	2
リハステーション	56	30	1	17
訪問介護	10	27	0	3
居宅支援	9	14	0	2
北部包括	18	0	0	0
事務所	0	2	0	1
合 計	707	1,078	7	30

※事故とは保険者に対し報告すべき基準を満たした件数 守山市基準:入院、死亡に至った事故

※準事故とは受診・往診を基準とした件数(その他、直接利用者に関わらない事故も含む)

6. 苦情受付の状況

(件)

	入所(事務所含む)	両デイ	両リハステ	ケアハウス	グループ	訪問介護	居宅支援	包 括	合 計
受付件数	6	2	17	0	0	3	2	0	30

(内訳)

内 容	入 所	両デイ	両リハステ	ケアハウス	グループ	訪問介護	居宅支援	包 括	合 計
サービス不良	2	2	3	0	0	1	0	0	8
サービス向上	0	0	3	0	0	1	0	0	4
職員の態度不良	6	1	4	0	0	1	0	0	12
サービス未実施、間違	0	0	3	0	0	0	0	0	3
利用者請求間違い	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他	0	2	3	0	0	0	2	2	9
合 計	8	5	17	0	0	3	2	2	37

7. 防災、防犯訓練等の状況

(回)

訓練種別	避難訓練	消火訓練	通報訓練	合計	総合訓練	地震想定	夜間想定	水防想定	BCP含む
部署	昼間実施	昼間実施			(合計を含む)	(合計を含む)	(合計を含む)		防災、防犯研修
入所サービス	3	3	3	9	3	2	1	1	1
ケアハウス	5	2	2	9	1	1	0	1	2
グループホーム	2	2	2	6	2	2	1	0	1
守山デイ	1	2	2	5	1	1	0	0	1
幸津川デイ	2	2	2	6	2	2	0	0	1
リハステ守山	2	0	2	4	0	0	0	0	0
リハステ草津	2	0	2	4	0	0	0	0	0
合計	13	11	11	35	9	8	2	2	6

*法人全体のBCP研修、訓練

BCP研修(園内研修:全職員対象、中途採用者研修:中途採用者対象) 1回

防犯研修 12/13 講師:守山警察署

8. ボランティアの来園状況

ボランティア登録グループ数 52 グループ

ボランティア登録延べ人数 268 人

事業所別来園者延べ人数 (人)

入所サービス	798	ケアハウス	182	グループホーム	116
守山デイ	582	幸津川デイ	482	延べ人数合計	2,160

9. 人員状況表

(R2年度末人員状況表)

(人)

	正規職員	パート職員	合計
平成31年3月末日人数	104	93	197
平成31年4月1日人数	107	94	201
期中入職者	14	23	37
退職者	8	11	19
令和2年3月31日人数	113	106	219
令和2年4月1日人数	119	99	218

常勤職員(パート含)換算人数⇒ 165.0人

平均年齢 全体 48.5歳

正規職員 40.4歳

※正規職員離職率=6.6%

(期中退職者)÷(期首職員数+期中採用者)

H30年 11.8%

一昨年 11.5%

(部署別人数)	特養	57	25	82		
	デイ	23	35	58		
	居宅	5	2	7		
	訪問・地域	2	10	12		
	KH	5	5	10		
	GH	8	12	20		
	包括	10	4	14		
	本部・総務	9	6	15	(役員・日宿直者含)	

(男女別人数)	男	女	男	女	男	女
	43	76	23	76	66	152